



青空すがすがとうらうらと美しく晴れた晩秋の日曜日、紅葉も見ごろ、寒くなる前に、お外に出て活動しておきたいのは、蓋し生き物の自然。

実は、しばらく麦わら帽子の中に押し込めていたあみねこたちが、外に出たいブーイングを始めていたのである。

...土曜の夜、灯りをつけて本を読んでいたら、棚の上にほったらかしの麦わらから、兄弟を代表、長男アオ君がむくりと起き上ってきた。



「おい、この頃、あんまりにもオレたちのこと、ほったらかしなんじゃないか。」

「ハワイのリゾートとか温泉旅行とまでは言わないがな、せめて地元の公園のお散歩くらい連れてってんでもいいんじゃないか。」

もっともな要求である。

ということで、日曜日午後、あみねこたちを全員かばんにに入れて、近所の公園にお散歩にでかけた。



つるべ落としの秋の夕暮れ。午後はたちまち暮れていってしまう。

「着いた？公園？」とねこたちが騒ぐので、とりあえず、木登りでもしてみろ、と、かばんから出してやる。



「木登りって大変だよ、兄ちゃん。」 「そうか？」



よいしょよいしょよいしょ。



やっぱり公園は、気持ちがいいな。



「あとちょっとで、あの枝に届くぞ。」

「兄ちゃん、重いヨー。」



猫のなる木。



艶やかな紅葉の紅には、オレの鮮やかなイエローが映えるのさ、お洒落木登り。



カラフルなチビたちは元気だな。公園ったら、ベンチでお昼寝するって相場が決まってるのさ...
イヤイヤ違う、相棒よ、そんなハンパなんじゃなくて、ちゃんとゴロゴロしなくちゃいかん。



こうかな?...グウ。



遊ばせている間、本でも読むか、と広げたら、アオくんがよじ登ってくる。

「公園のベンチで読書なんて、気取ってるじゃねえか。」

「邪魔しないでよう、水曜のクルト読んでるんだから。」



目の前は、川向こう、金色にひかるススキ。気持ちははろばろ。



冷えてきたから、帰ろう。

また、外に遊びに行こうね。

あみねこの日々 あみねこ公園へ行く

<http://p.booklog.jp/book/46120>

著者 : yamamomon

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/yamamomon/profile>

※あみねこの著作権は、ねこやまさんにあります。

この写真絵本は、ねこやまさんの許可を得てyamamomonが制作、発表しているものです。

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/46120>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/46120>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.